



J・A・C

(第 5 号)

## 千葉支部だより

発行者 篠崎仁  
編集者 結城純一

## 上高地を「画く、写す」千葉支部スケッチ、カメラ山行



期日 : 2008 年 10 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日)

場所 : 上高地

参加者: 小沢けい子 後藤三男 櫻田直克 篠崎仁 菅沼満子 竹島正義 田代貴征 田代治子  
津田麗子 豊倉さと子 能美勝博 能美瑞穂 芳賀淳子 三木雄三 山口文嗣  
山口三千子 結城純一 渡邊信一 渡邊すみ子

わが国屈指の山岳景観を誇る上高地。そんな自然の美しさにひかれて上高地を訪れる人々は、年間180万人にも上る、という。

私たちが訪れたのは 10 月 25、26 日。カツラやハルニレは黄葉を散らしていたが、針葉樹で唯一落葉するカラマツは黄金色に輝いて、荘厳でさえあった。

田代池のあたりでイワナだろうか、人影にも驚かず悠々と泳いでいるのを見た。

「谷の精」とも呼ばれるイワナはすっかり激減したというから、今となってはカワマスなど別の魚だったかなと、ころもとない。

私たちの目的は「スケッチ」と「撮影」。画家でもある後藤三男さんや山岳会きっての腕前

をもつ津田麗子さん、結城純一さんというそうそうたる人たちを講師陣に、会友を含めて19人が参加、大盛況の2日間だった。

初日。参加者を前に後藤画伯が、「記憶に止めておきたい場所を選んで、画面の中に大きく取り入れることが絵を描くコツ」と指導。津田さん、結城さんも「写真は光と影、対象のとらえ方が勝負」と親切丁寧に教えてくれた。

みんな、めいめいに思いの場所に陣取り、ちょっとした芸術家気分ひたつた。時間があっという間に過ぎ、肌寒くなってきたので今宵の宿の「山研」へ。入浴後はお楽しみ時間となり、会員・会友の分け隔てなく、大いに盛り上がった。



翌朝、「寒い」と思ったら、岳沢や明神、霞沢、焼岳が真っ白く化粧していた。「紅葉散る」は冬の季語。山から冬が下りてきた。「私は徳沢」「それじゃ明神池に」と、2日目は自由行動。「新緑のころに、もう一度来たい」。会友のお嬢さんも楽しそうな企画だった。

(三木 雄三)

## 第6回千葉の里山を歩く 津森山

実施日:2008年11月30日(日)

場 所:「津森山」(つもりやま)標高336M

幹事 :L;櫻田直克 SL;諏訪吉春

参加者:25名(男性16名、女性9名)

赤井一隆、石岡慎二、遠藤将一、大浦陽子、小沢けい子、金子有美子、櫻田直克、塩澤厚、篠崎仁、柴山武、諏訪春吉、津田麗子、竹島正義、豊倉さと子、芳賀淳子、芳賀孝郎、三木雄三、南井英弘、結城純一、吉永英明、渡邊信一(以上会員)  
小高民江、長澤克治、吹野義憲、横田幸子(以上ゲスト)

JR内房線保田駅に9時半過ぎに全員が集合し、10時に早速、鋸南町の町営バスに乗り込み大崩(おくずれ)バス停まで20分を長狭街道を鴨川方面に向った。湯沢バス停を右折して大崩方面に入る。辺りの房総の照葉樹林の里山にも紅葉樹もあり、紅葉のシーズンの風景であった。大崩バス停には10時20分に到着。バス停には銀杏の大木が沢山のギンナンを落としていた。スイセンは斜面や棚田のいたるところに植えられてる。スイセンは未だ蕾だった。近くの真言宗の満蔵寺を見学しハイキングを開始、津森山へ向って舗装道路を歩き始めた。道々、トンビの姿やホタルブクロ、ノコンギク、イヌタデやホトギスなど野草の花も目に付いた。

11時頃、津森山の登り口。コナラやクヌギの落葉の道で登山靴がカサカサと響く。その上

のカヤトの斜面で休憩する。カヤトの地面を見ればリンドウが咲いていた。南を見れば右から富山、伊予ガ岳、御殿山が見える。富山の後ろには伊豆大島の三原山も、その右には富士山も。休憩後いよいよ杉林の中の地面を急登して津森山の頂上へ。



頂上には11時45分。ここで昼食。【東】千葉県の最高峰愛宕山(408M)航空自衛隊ドーム

が見えた。その左には鴨川市内と外房の海が臨める。【北】鹿野山とマザー牧場,その左には富津岬に東京湾。【南】富山,伊予ガ岳,御殿山も,真近には人骨山も見えた。12時45分ここで予定には無い人骨山(標高290M)に登る行く事になった。

法明分岐を経て,13時15分に人骨山の入り口へ,照葉樹林に入ると道は狭く直登でかなり厳しかった。それに倒木もあり往生しながら狭

い頂上へ着いた。頂上には車輪梅の木や桜の大木もあり春には桜の花が最高だろう。15時の鋸南町の町営バスに乗って保田駅へ。

保田駅からばんやまで歩いて行く。ここで保田魚業組合自慢のウルメ鯛の刺身,イカのかきあげ,鯡のナメロウを賞味し,更にタチウオの刺身や金目鯛の煮付等の海の幸を堪能した。18時頃送迎バスで保田駅へ。千葉行きの電車で岐路に付いた。(渡邊信一)

## 2008年度年次晩餐会

2008年度年次晩餐会が12月6日に品川グランドプリンスホテル新高輪国際館パミールにて開催された。不景気の影響か当初の参加申込が例年より少ないということで千葉支部もメール網等で参加を呼びかけ,今年も全支部で最多28名の出席者を得ることができた。今年は,皇太子殿下もご出席された。

晩餐会の大きな意義は全国各支部の旧友との交流,そして新しい出会いにある。今年も各テーブルで時をわすれた楽しい懇談が続いた。千葉支部関係では,土屋満さんが永年会員に選ばれた。



(宮下会長を囲んで)

### 全国支部長会議

晩餐会に先立ち,午前中にJACルームにて支部長会議が開催された。

・法人制度改革 当会がどう対応すべきか執行部より説明があった。12月の新法実施を踏まえ,「公益社団法人」または「一般社団法人」のどちらか選ぶことになる。詳細の説明,討議は来年2月の事務局会議にて

行う。

・「山の日」プロジェクト(案) 国民の祝日として「海の日」はあるが山の日がない。当会が主体となって全国規模の「山の日」の制定を目指したい。そのためのプロジェクトチームを立ち上げ,各支部に「山の日」担当者を置き取組むこととする。

・登山情報の提供について

国土地理院より,登山者の安全性向上の観点からJACと提携して主要な登山道に関する変化情報等を交換したいとの申し入れがあった。2009年4月より実施したい。詳細は別途。

### 千葉支部会員の図書紹介

年次晩餐会のイベントとして,千葉支部の会員による著書を展示紹介しました。いずれも読み応えのある立派な著作です。ぜひご一読ください。ただし,3.芳賀孝郎氏,4.後藤三男氏の本は絶版です。



- ①小疇 尚(こあぜたかし)  
(明治大学名誉教授、専門 自然地理学、  
地形学)  
『山を読む(自然景観の読み方)』  
(岩波書店、2007)
- ②平山 善吉(ひらやまぜんきち)  
(前日本山岳会会長、千葉支部顧問)  
『エベレスト遙かなり』(悠々社、1998)
- ③芳賀 孝郎(はがたかお)  
(前日本山岳会副会長、千葉支部顧問)  
『この山に呼ばれて』  
(カナダ山岳会、2000)
- ④後藤 三男(ごとうみつお)  
(画家、日本山岳画協会会員)  
『安曇野紀行 後藤三男画集』  
(信毎書籍出版センター、2001)
- ⑤堂本 暁子(どうもとあきこ)  
(千葉県知事、元参議院議員)  
『温暖化と生物多様性』(築地書館、2008)
- ⑥ 増田 欣子(ますだきんこ)  
(日本山岳画協会会員)  
『山はアトリエ<穂高、涸沢 >』  
(山と溪谷社、1988)
- ⑦川島 由夫(かわしまよしお)  
(大学講師(英米文学))  
『心に山ありて』(新生出版、2007)
- ⑧濱村 信(はまむらまこと)  
(株スリーアイ 設立・主宰)  
『俺山(やま)』(白山書房、2006)  
(篠崎仁)

## 第2回 千葉支部講演会

演題 「千葉の里山と自然保護」

講師 千葉県立中央博物館副館長 中村俊彦 氏(農学博士、専門分野:植物生態学・  
景相生態学・コケ植物学)

日時 2008年5月11日(日)

会場 京葉銀行文化プラザ

千葉の自然は世界一である。沖合に暖流の黒潮と寒流の親潮がぶつかり合う房総半島は、南方、北方両方の動植物が生息・生育する。陸域は、中国南部に端を発する温暖帯の常緑広葉樹林(照葉樹林)域の北限に当たり、一方房総半島北部や丘陵地帯には落葉広葉樹林(夏緑樹林)も多く落葉樹と照葉樹のぶつかり合いが見られる。千葉では当たり前のこれらのぶつかり合いは、世界的にもめずらしい恵まれた自然であり、この恵まれた生物多様性はそのまま botanical garden であるといえる。

千葉名産のナシは北総域で栽培される落葉広葉樹、また南房総域に多いビワは常緑広

葉樹で、ともにバラ科の果樹である。それぞれの生産額は、ナシは全国一位、ビワが二位でまさに常緑広葉樹林から落葉広葉樹林への移行を象徴する。これらは両方とも房総に自生する種ではない。

千葉の里やま生態系は生物の宝庫である。そして、里やまを形成する要因である「日本の伝統的な農業手法」は、地域の自然本来の力を最大限引き出すものでもあった。人とかわりながら豊かな自然を保ってきた里山がいま存続の危機に瀕している。

\* \* \* \* \*

千葉県は全国に先駆け「里山条例」を制定し里山の保全に取り組んでいる。千葉支部も

里山の自然を楽しみながら、これらを護る活動にどう関わっていくことができるか検討していきたい。(篠崎仁)

参考文献

中村俊彦『里やま自然誌』  
(マルモ出版、2004)

岩槻邦男、堂本暁子編『温暖化と生物多様性』(築地書館、2008)

## 宮城支部設立50周年記念式典に参加して

10月18日、ホテル仙台プラザで行われた宮城支部設立50周年記念式典に参加してきた。仙台出身の榎有恒氏を隊長とするマナスル初登頂の2年後、1958年5月設立という。まず、中村保会員による講演「ヒマラヤの東チベットのアルプス—東チベットの山と横断山脈」が行われた。美しいスライドを見ながら、255座もあるという6,000m超の未踏峰に想いを寄せた。記念式典は、100余名の参加者のもと宮下会長のあいさつに始まり、多くの祝詞が寄せら

れた。さらには、女性コーラスグループStellaによる本格的な演奏が宴を盛りあげた。

翌19日は、紅葉のきれいな仙台近郊の泉ヶ岳・北泉ヶ岳登山。熊の住む山ということでまだ生々しいフンが3箇所、さらには獣臭も漂ってきたが姿は見せなかった。

支部設立50周年記念誌『宮城山岳』を頂戴してきた。174頁の50年史は読み応えがある。千葉支部もしっかりと記録を残しておかねばとの思いを新たにしたい。

(篠崎仁)

## 柏市内住宅地にサケが遡上

11月16日は氷雨が降っていたが、早朝ウオーキングのため大堀川沿いに下ることにした。15分ほど歩き、大堀川にかかる新堤橋の上から川面を見つめると浅瀬に背びれを出した魚が2匹見えた。サケが利根川を遡り、数年前まで湖沼ワースト・ワンと評価されていた手賀沼を通過して、手賀沼に流れ込む大堀川まで遡上してきたのだ。



2年前に大堀川に面する柏市立高田小学校の理科クラブの子供達が観察を続ける橋の上から沢山いる鯉とは違った大きな魚を見つけ、サケの遡上を発見した。NHKを含む各TV会社や各紙が大々的に報道していた。昨年何匹か遡上したのを目撃したが、3年続きに嬉しくなり、JAC千葉支部で知り合いになった千葉日報社編集局・論説委員の三木雄三さんにお知らせした。柏支局の方が大堀川の産卵現場を取材され、同紙20日の朝刊に大きく報道された。

その後毎日、サケの様子を確認するために出かけましたが、新聞を見たと言って連日大勢の見物人で賑わっていた。最盛期には40~50匹はいたであろう。誠に残念なことに高

田小学校の横に約1mの高さの人工堰があり、サケや鯉たちもこれ以上の遡上が出来ない。砂地もなく、サケは小石交じりの川底に産卵している。人間中心的な河川工事でなく、魚道など生き物への配慮が不可欠と痛感した。

さて、これらのサケは迷い込んできたのだろうか。サケの稚魚を放流している話は聞かない。

この人工堰の1km程上流から大堀川と手賀沼浄化の為、毎日、利根川の水を1秒1トン放流している。この水に彼らの生まれ故郷の匂いがあるのではないかと私は想像していますが如何なものであろうか。

(南井英弘)

## 第2回三支部(千葉・栃木・茨城)懇談会 & 千葉支部新年会

1. 期日:平成21年2月7日(土)～8日(日)

2. 場所:千葉県南房総市「治郎吉」TEL. 0470-57-2047

「治郎吉」は、岩井海岸の海辺にある伊勢えび、アワビなど海鮮料理が自慢の漁師民宿です。  
(治郎吉にはホームページ等の案内はなく千葉支部会員が送迎予定。)

3. 会費:13,000円(宿泊2食付き、懇親会費等含)※各自でタオル持参願います。

4. 日程:

(1)2月7日(土)

①民宿治郎吉:受付時間は3時半(チェックインは1時より可能。)

集合:イ. 電車の場合➡(事務局推奨)JR内房線「岩井駅」から徒歩10分

※参考:東京駅発 11:30➡岩井駅着 13:06(特急)、千葉駅発 12:59➡14:48(普通)、  
東京駅発 13:30➡15:06(特急)、千葉駅発 13:59➡15:31(普通)

ロ. 高速バスの場合➡「ハイウェイオアシス富楽里(ふらり)」駅より車で5分

※参考:東京駅八重洲南口発「房総菜の花号」一日27往復54便(30分毎)  
所要時間100分 片道料金2100円(往復4,000円)

八重洲南口発 12:20➡富楽里着 13:55、以下30分毎出発

八重洲南口発 12:50➡富楽里着 14:34、

八重洲南口発 13:20➡富楽里着 14:55

※参考:千葉駅発21番乗場「南総里見号」所要時間75分片道料金1300円

千葉駅発 12:10➡富楽里着 13:22、千葉駅発 13:10➡富楽里着 14:22、

千葉駅発 14:10➡富楽里着 15:22、(注、12/1ダイヤ改正有) TEL047-434-5588

ハ. 自家用車利用の場合➡(民宿治郎吉さんの所で10数台可能)

② 新年会・懇親会開会〔司会進行 結城〕16:00

・千葉支部長挨拶(篠崎支部長)・日本山岳会来賓挨拶

・栃木・茨城支部長挨拶・各支部の活動報告〔意見交換会〕16:30～17:30

・懇親会〔司会進行 本木〕18:30～

(2)2月8日(日) ※昼食は各自で用意願います。

・朝食 7:30 ・山行出発 8:30(各班ごとの活動でリーダーの指示有)

①富山登山グループ リーダ 櫻田 サブ 本木

## ②鋸山登山グループ

イ. 登山班           リーダー 三木       サブ 渡邊

ロ. ロープウェイ班   リーダー 諏訪       サブ 篠崎、後藤

※それぞれの班ごとに解散とします。

(3)参加申込締切り 1月18日(日)葉書、電話、Fax 等にて連絡願います。

なお、キャンセルの場合は、1月31日迄にご連絡ください。

それ以降は、キャンセル料がかかることがあります。

## お花畑から高塚山へのハイキングのお誘い



房総の春の風物詩、磯の香りが漂う満開のお花畑を見ながら高塚山へのハイキングを企画しました。

陽春の季節潮風に吹かれて房総の里山を散策しながらお花摘み、道の駅・さくら潮風王国で休憩などをお楽しみ下さい。  
(結城純一・津田麗子・後藤三男)

日 時:平成 21 年 3 月 8 日(日)

集合場所:JR 千倉駅改札口前 AM10:20

経 路: 新宿－船橋－津田沼－千葉－館山－千倉

特急・さざなみ 7:50 8:25 8:29 8:40 10:06 10:18

JR バス千倉発 10:25－約 15 分で七浦小学校前下車

高塚山(216m)－七浦小前往復約 2 時間

七浦小－ちくら潮風王国間 5 分

※お問い合わせ・お申し込み

## お知らせ

### ★相互振込みについてのご注意

平成 21 年 1 月 5 日から、全国の金融機関(一部を除く)との相互振込が可能になりますが  
ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込をなさる場合は、下記をご指定下さい。

(会計 津田麗子)

### ★千葉支部ホームページ開設

このたび、千葉支部のホームページが開設されました。

アドレスは [www.asahi-net.or.jp/~DN9N-WTNB/Jac-chiba/](http://www.asahi-net.or.jp/~DN9N-WTNB/Jac-chiba/)

### ★千葉支部新入会員

土屋満(つちやみつる)さん

### ★訂正

千葉支部だより第4号の「軍荼利山」山行報告書で  
報告者の氏名に誤りがありました。執筆者は諏訪さんです。  
紙面をもってお詫び申し上げます。

### ● 編集後記

年次晩餐会も終わり、早いものでもう年末です。今年1年、アメリカのサブプライムローン  
を発端に日本の経済が急速に低下し、世間では不景気な話ばかり耳に入ってきます。せめ  
て、山に登っているとき位は、世間の不景気を忘れ、楽しい山登りにしたいですね。

(結城 純一)